

2010●図書館展示 9月



Requiem

～典礼の儀式と音楽作品～

企画・構成●三宅巖（国立音楽大学附属図書館総務部）

期間●2010年8月30日～10月1日

場所●図書館ブラウジングルーム・AV資料室



Requiem

～ 典礼の儀式と音楽作品 ～

日本では「鎮魂歌」「鎮魂曲」などと訳されるレクイエム。
しかし、典礼上では、レクイエムには、鎮魂の意味合いはありません。
今回の展示では、最も演奏される機会の多いモーツァルトのレクイエムを例に、
レクイエムについてご紹介します。



目次

レクイエムは「鎮魂曲」ではない	2
プロテスタントにはレクイエムはない	2
音楽におけるレクイエム	2
典礼の儀式でレクイエムはどのように演奏されたか	3
モーツァルトの「レクイエム作曲伝説」について	4
モーツァルトのレクイエムの版について	4
モーツァルト後のレクイエム	5
展示資料紹介	6

企画・構成 三宅巖（国立音楽大学附属図書館総務部）



レクイエムは「鎮魂曲」ではない

まず、レクイエムとはどんな意味でしょうか。

図書館のホームページや、図書館内の PC コーナーや情報端末コーナーのデータベースで調べてみましょう。

まず、「国内のデータベース」を選びます。次に、「Japan Knowledge」を選びます。学校・図書館研究機関等でご利用の方の「ログイン」ボタンをクリックします。検索語に「Requiem」と入れて検索ボタンをクリックします。15件出てきました。

「現代用語の基礎知識」を選んで見ると、「死者のためのミサ、死者を祭るミサ曲、鎮魂曲、鎮魂歌」となっています。本の書名や映画のタイトル等で「鎮魂曲」「鎮魂歌」とルビがふられている場合がありますね。

ところが、「日本大百科全書」を見てみると、「キリスト教において、死者のための典礼で歌われるミサ曲。わが国では「鎮魂曲」「鎮魂ミサ」などと訳されることがあるが、死者が天国へ迎えられるように、神に祈る典礼のためであって、死者の霊を弔うものではないから、適切な呼称ではない。」となっています。レクイエムは「鎮魂曲」「鎮魂歌」ではないのです。

つまり、日本では、「死者のための典礼曲」「死者の弔いのための曲」「魂を鎮めるための曲」「鎮魂曲」と誤った形で捉えられてしまったのです。

プロテスタントにはレクイエムはない

今度は、別のデータベースで調べてみましょう。

「国内のデータベース」から「ネットで百科」を選びます。項目名検索キーワードに「Requiem」と入れて検索ボタンをクリックします。

すると、「世界大百科事典」で「(1) ローマ・カトリック教会で行われる死者のためのミサ典礼をいう。その名はこのミサの入式文の冒頭句、彼らに永遠の安息を与え給え の最初の語 requiem (安息を の意)による。ミサではあるが、グロリア と クレド は用いられず、福音書朗読の前に、怒りの日 dies irae で始まる長大な続唱がある。教会暦中では 11 月 2 日の 諸死者の日 (万霊節)に行われるが、随意ミサとして個人の葬儀や命日にも行われる。14 世紀に基本的形態が確立され、トリエント公会議以後、続唱が加えられるなどの変化を経て現在に至っている。」となっています。これが、カソリックの典礼におけるレクイエムの意味です。

では、プロテスタントには、レクイエムはあったのでしょうか。

そもそも、プロテスタントは、マルティン・ルターが、免罪符の販売に疑問を抱き、1517 年に「95ヶ条の質問状」を公開したのが発端となった宗教改革によって生まれました。免罪符は、死後、天国に迎えられるように、これを購入すれば生前の自分の罪を免罪されると教会が信者に販売していました。このことから分かるように、プロテスタントの死後の概念は、カソリックと異なり、死とは、天の主イエス・キリストの元に帰ることであり、喜ばしいことであり、悩んだりすることではないとしています。従って、プロテスタントにはレクイエムはありません。プロテスタントであったバッハがレクイエムを作曲していないのもこのためです。

音楽におけるレクイエム

典礼におけるレクイエムに対して、音楽におけるレクイエムはどういう意味でしょうか。

「世界大百科事典」では、「(2) 死者のためのミサ の式文に作曲した音楽。鎮魂ミサ曲 などと訳される。グレゴリオ聖歌に始まり、15 世紀後半から合唱曲の形でも作曲されるようになった。オケヘム、ラツ、パレストリーナ、T.L.de ピクトリアなどの作品がある。1600 年以後は独唱、合唱、管弦楽からなる大規模な作品が作られるが、しだいに演奏会用の性格が強くなる。モーツァ

ルトの(レクイエム)は未完であったが、弟子が完成させたもので、古典主義的であるよりもむしろバロック様式に近い。19世紀ではベルリオーズ、ベルディ、フォーレの作品が有名であるが、リスト、サンサーンス、ブルックナー、A.ドボルジャークも作曲しており、20世紀ではM.デュリュフレ、リゲティがあげられる。上述の諸作品がカトリック教会のラテン語の詩句によるのに対し、各国語の自由な詩句によるレクイエムも存在する。いわゆるドイツ・レクイエムがその例で、H.シュッツ、シューベルト、ブラームスらによって作られた。またブリテンの(戦争レクイエム)も、自由な詩句による演奏会用の作品である。」となっています。

つまり、典礼で歌われていたグレゴリオ聖歌の代わりに合唱曲の形で作曲された曲が歌われ、さらに、楽器による伴奏がつくようになり、それが、大編成となり、次第に典礼ではなく、演奏会で演奏されるようになりました。また現代では、レクイエムという名称が付けられた、典礼にとらわれない自由な詩句による作品が数多く作曲されています。

典礼の儀式でレクイエムはどのように演奏されたか

キリスト教の礼拝などに参加された方はお分かりになると思いますが、典礼の儀式は、説教、聖書朗読、祈り、聖歌合唱が入り混じって行われます。音楽のレクイエムは、この儀式の一部分に曲をつけたものです。

では、レクイエムの式次第はどのようなものか、モーツァルトのレクイエムを例に示したいと思います。式次第は、先に述べたルターなどによる宗教改革に対抗すべく1545-1563年に行われたトレント公会議での典礼様式の統一に基づき、1570年に交付された『ローマ・ミサ典礼書』によります。

1. 入祭唱(Introitus) - モーツァルト
2. あわれみの賛歌(Kyrie) - モーツァルト
3. <入祭祈願(Oratio)>
4. <聖書朗読(Lectio)>
5. <昇階唱(Graduale)> - グレゴリオ聖歌
6. <詠誦(Tractus)> - グレゴリオ聖歌
7. 続唱(Sequentia): 怒りの日(Dies irae) ~ 不思議なラッパ(Tuba mirum) ~ みいつの大王(Rex tremendae) ~ 思い出させ給え(Recordare) ~ 判決を受けた呪われた者は(Confutatis) ~ 涙の日(Lacrimosa) - モーツァルト/ジュスマイヤー加筆
8. <福音書朗読(Evangelium)>
9. 奉納唱(Offertorium) - モーツァルト/ジュスマイヤー加筆
10. <叙唱(Praefatio)>
11. 感謝の賛歌(Sanctus): 聖なるかな(Sanctus) ~ 祝せられますように(Benedictus) - ジュスマイヤー
12. <主の祈り(Pater Noster)>
13. 平和の賛歌(Agnus Dei) - ジュスマイヤー
14. 聖体拝領唱(Communio) - モーツァルト/ジュスマイヤー編
15. <聖体拝領祈願(Postcommunio)>
16. <閉祭の祈り(Requiescant in pace)>

ここで太字の部分がモーツァルト/ジュスマイヤーが曲をつけた部分です。

実際に、このような典礼のミサの間に演奏を挿む形で行われたレクイエムの録音が当館で所蔵されています。以下の4点です。

・1955年12月、ウィーン・シュテファン大聖堂でのモーツァルトの命日ミサ典礼 オイゲン・ヨッフ

ム指揮ウィーン交響楽団、他(請求記号 XD14985)

・1964年1月19日、マサチューセッツ州ボストン聖十字架大聖堂でのジョン・F・ケネディ追悼死者のための荘厳司教ミサ エーリヒ・ラインスドルフ指揮ボストン交響楽団、他(請求記号 XD59224-5)

・1965年12月4日、東京カテドラル聖マリア大聖堂でのモーツァルトの命日追悼ミサ 若杉弘指揮読売日本交響楽団、他(請求記号 XD43348)

・1991年12月5日、ウィーン・シュテファン大聖堂でのモーツァルト没後200年記念典礼ミサ ゲオルグ・ショルティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他(請求記号 XD27345[一部省略あり])

中でも、1991年のモーツァルト没後200年記念典礼ミサでは映像が残っておりますので一度ご覧ください。(請求記号 VD1325、他)

また、1998年3月20日、東京芸術劇場でのフランス・ブリュッヘン指揮18世紀オーケストラ、他の演奏では、曲の途中でグレゴリオ聖歌が挿入されていますが、上記の通りではなく、曲頭に、グレゴリオ聖歌の「入祭唱」が、「続唱」の後に、グレゴリオ聖歌の「詠誦」が、「奉納唱」の後に、グレゴリオ聖歌の「奉納唱」が挿入されています。(請求記号 XD50881)

モーツァルトの「レクイエム作曲伝説」について

モーツァルトの元に灰色の服の男が訪れ、レクイエムの作曲を依頼しました。モーツァルトは男が死神で自分の葬儀のためのレクイエムを依頼したと思い込み、死の恐怖に怯えながら、作曲を続けました。

これが、世に言う「レクイエム作曲伝説」ですが、現実には、作曲の依頼者はウィーンのフランツ・ヴァルゼック・フォン・シュトゥパハ伯爵(Franz Walsegg von Stuppach 1763-1827)で、1791年2月に無くなった妻の追悼のために曲を依頼し、自作と称して奉獻しようとしたのでした。モーツァルトはこの時、無給ながらも、聖シュテファン大聖堂副楽長の職を得て、ザルツブルクから、ウィーンに出て以来、殆ど作曲していなかった教会音楽の作曲を手掛けることになり、これまでのブランクを埋めるべく、レクイエムの依頼を引受けたというのが真相のようです。

モーツァルトのレクイエムの版について

モーツァルトはレクイエムの作曲の半ばの1791年12月5日にこの世を去りました。この時完成していたのは、「入祭唱」のみで、「あわれみの賛歌」「続唱」「奉納唱」については、合唱声部と低声声部だけが完成されていました。また、「続唱」の最後の「涙の日」は第8小節までしかありませんでした。(Christoph Spering 指揮、das neue orchester、他の演奏(請求記号 XD64988)では、付録として「続唱」「奉納唱」「アーメン・フーガ」のモーツァルト自筆譜の断片の演奏を聴くことができます。)

ヴァルゼック伯爵から作曲の前金を受け取っていたモーツァルトの妻コンスタンツェ(Konstanze Mozart 1762-1842)はレクイエムの完成を迫られ、モーツァルトの弟子の一人であるヨーゼフ・レーオポルト・アイブラー(Joseph Leopold Eybler 1765-1846)に完成を依頼しました。この完成作業には、さらにフランツ・ヤコブ・フライシュテットラー(Franz Jacob Freystadtler 1768-1841)とマクシミリアン・シュタードラー(Maximilian Stadler 1748-1833)も加わりましたが、結局、フライシュテットラーは「あわれみの賛歌」のオーケストラ・パートの加筆を、シュタードラーは「奉納唱」のオーケストラ・パートの一部の加筆を、アイブラーは「続唱」の「怒りの日」から「判決を受けた呪われた者は」までのオーケストラ・パートと「涙の日」の第8小節以降のソプラノ声部2小節の加筆を行っただけでした。

そして、彼らの書込みが残るモーツァルトの自筆譜は最も若かった弟子のフランツ・クサーヴ

アー・ジュスマイヤー (Franz Xaver Süssmayr 1766-1803) に委ねられたのです。ジュスマイヤーは次のような補筆・完成作業を行いました。

- ・「あわれみの賛歌」のオーケストラ・パートの完成と自筆譜への書込み
- ・「怒りの日」から「判決を受けた呪われた者は」までのオーケストラ・パートの改訂と浄書
- ・「涙の日」の第 8 小節までのオーケストラ・パートの完成と、第 9 小節からの新作
- ・「奉納唱」のオーケストラ・パートの改訂と浄書
- ・モーツァルトが作曲しなかった「聖なるかな」「祝せられますように」「平和の賛歌」の新作
- ・モーツァルトが作曲しなかった「聖体拝領唱」を「入祭唱」「あわれみの賛歌」の転用で作成

この完成した楽譜がいわゆる「ジュスマイヤー版」です。この「ジュスマイヤー版」に対する不満は当時からあり、また、このレクイエムの真偽も話題になりました。そして、「ジュスマイヤー版」の作曲上の不備を修正する形で数々の版の楽譜が刊行されました。

ミュンヘン音楽大学教授でコレギウム・アウレウム合奏団のヴィオラ奏者だったフランツ・バイヤー (Franz Beyer) が 1971 年にジュスマイヤーのオーケストラ・パートを訂正した「バイヤー版」を刊行しました。声楽パートと管楽器パートの機械的な重複や、主旋律の三度下での声部の重複が回避されています。

ハイドンの研究者として有名なアメリカの音楽学者 H・C・ロビンズ・ランドン (H. C. Robbins Landon) は 1990 年に「ランドン版」を刊行しました。アイブラーによる「続唱」のオーケストラ・パートを取り入れているのが特徴です。

アメリカの音楽学者リチャード・モーンダー (Richard Maunder) によって 1986 年に刊行された「モーンダー版」は、モーツァルトが草稿を残していなかった「聖なるかな」「祝せられますように」を除外し、ジュスマイヤーが補筆した部分をすべて書き直していて、また 1960 年代にドイツの音楽学者ヴォルフガング・プラートが発見した「アーメン・フーガ」が取り入れられているのが特徴です。「聖なるかな」「祝せられますように」が除外されているため、今日、あまり演奏されることはないようです。

1984 年、イギリスのヨーク音楽祭で演奏するために委嘱された、イギリスの作曲家ダンカン・ドゥルース (Duncan Druce) による「ドゥルース版」では、「モーンダー版」同様、「アーメン・フーガ」が追加され、さらに、「聖なるかな」「祝せられますように」「平和の賛歌」については、ドゥルースが作曲しています。この版も「モーンダー版」同様あまり演奏されません。

1987 年、国際バッハ・アカデミーの主催者ヘルムート・リングが、モーツァルトの管楽器のための協奏交響曲の元の楽器編成による復元を行ったアメリカのピアニスト、作曲家であるロバート・D・レヴィン (Robert D. Levin) に依頼し、モーツァルト没後 200 年の 1991 年 8 月 24 日、ヨーロッパ音楽祭で初演されたのが、「レヴィン版」です。レヴィンは、細部にわたってモーツァルトの教会作品の模倣を行っています。なるべく、過去の版の適切な箇所を残し、「涙の日」の後に転調なしの「アーメン・フーガ」を続け、「聖なるかな」の後半の調性の矛盾を修正しています。これらの新たな版の中で「レヴィン版」は最も演奏の機会が多いと思われます。

しかし、圧倒的に演奏されているのは、やはり「ジュスマイヤー版」です。作曲上の不備など、あれこれ言われますが、ジュスマイヤーは立派な仕事をしたと思います。

モーツァルト後のレクイエム

前の章でも述べたように、この後レクイエムは大編成の作品が増え、次第に典礼ではなく、演奏会で演奏されるようになりました。また、ベルリオーズやヴェルディなど、「続唱」の「怒りの日」で死への恐怖を強調するような作品が増えていきます。他方では、フォーレやデュリュフレのように「怒りの日」を省いた作品も作曲されています。

一方、1962年にローマ教皇ヨハネス二十三世によって招集された第二次ヴァチカン公会議においてミサ典礼の改革が行われました。ここで、従来ラテン語で行われていた典礼をそれぞれの国語で行うことを認められました。ですから、現在日本でのカソリックによる葬儀は日本語で行われています。しかし、一部では、ラテン語による典礼を続けている国もあります。また、「続唱」の「怒りの日」をレクイエムの式次第から外しています。

これらの改革によって、レクイエムの典礼での演奏の制約が増えることになり、結果として演奏会を想定した作品の作曲が増える一因になったと言えます。

また今日では、戦争や「9.11」などの大規模なテロの犠牲者の追悼のためのレクイエムが数多く作曲されるようになりました。これらの作品に対して、あるいは「鎮魂曲」「鎮魂歌」という訳が当てはまるかも知れません。

*参考文献

・200CD アヴェ・マリア編集委員会編『アヴェ・マリア；200CD；宗教音楽の名曲・名盤』（学習研究社）（請求記号 J103-881）

・J.ハーバー著；佐々木勉、那須輝彦訳『中世キリスト教の典礼と音楽』（教文館）（請求記号 C64-608）

相良憲昭著『音楽史の中のミサ曲』（音楽之友社）（請求記号 C57-927）

『モーツァルト大事典』（平凡社）（請求記号 C60-960、他）

展示資料

パネル

フランツ・ヴァルゼック・フォン・シュトゥパハ伯爵 (Franz Walsegg von Stuppach 1763-1827)

レクイエム作曲の依頼者フランツ・ヴァルゼック・フォン・シュトゥパハ伯爵(1763-1827)の影絵 1786年
出典:begrundet von Maximilian Zenger ; vorgelegt von Otto Erich Deutsch

"Mozart und seine Welt in zeitgenossischen Bildern" Kassel ; New York : Bärenreiter, 1961 (請求記号 J91-979)

シュトゥパハ城

1885年

出典:begrundet von Maximilian Zenger ; vorgelegt von Otto Erich Deutsch

"Mozart und seine Welt in zeitgenossischen Bildern" Kassel ; New York : Bärenreiter, 1961 (請求記号 J91-979)

ヨーゼフ・レーオポルト・アイブラー (Joseph Leopold Eybler 1765-1846)

出典:begrundet von Maximilian Zenger ; vorgelegt von Otto Erich Deutsch

"Mozart und seine Welt in zeitgenossischen Bildern" Kassel ; New York : Bärenreiter, 1961 (請求記号 J91-979)

コンスタンツェ・モーツァルト (Konstanze Mozart 1762-1842)

1782年

出典:Volkmar Braunbehrens, Karl-Heinz Jurgens

"Mozart ; Lebensbilder" Bergisch Gladbach : G. Lubbe, c1990 (請求記号 C53-651)

モーツァルトの肖像 バルバラ・クラフト画 油彩 (1819年) ウィーン楽友協会蔵

モーツァルトを直接にモデルとして描かれたものではないが、彼の死後、当時の優れた女性画家バルバラ・クラフトにより描かれたこの肖像画は、クローチェ作「家族の肖像」や、消失した細密画等に基づくものと推定されており、最もモーツァルト自身に似ているとされている。

出典:[Dreimal drei in Dur und Moll; Musiker, Freimauer, Bruder in Apoll, by Oberheide. (Verlag Deutscher Freimauer GmbH, 2009)] (請求記号 J117-615)

死の床のモーツァルト ペンによるスケッチ画 詳細不詳
「フローベルガー」というサインがあるが、この名前の画家については未詳。実際のスケッチではないが、死の床に伏すモーツァルトと周囲の人々の様をイメージとして描いたものと思われる。
出典:『モーツァルト全集』第1巻 解説書 海老澤敏ほか著 日本フォノグラム 1990] (請求記号 XD11172-1)

モーツァルト作曲レクイエム総譜の冒頭部分
出典: "Requiem, KV 626" Bärenreiter, 1990. (Musica manuscripta ; 6). (請求記号 H31-731、他)

書籍

エルマンノ・アリエンティ指導『レクイエム発音講座；ローマ・カトリックの流れに基づく』
アット・プリモ(製作)、(1996) 請求記号 J109-074
イタリア語、ラテン語で書かれたオペラ、ミサを中心に、その内容・歴史・発音のすべてを解説した
「わかって歌おうシリーズ」の一冊。レクイエム全文朗読、発声練習収録CD付。

高橋正平著『レクイエム・ハンドブック』
東京：ショパン、1994 請求記号 J109-078
レクイエムの典礼の歴史、内容と、レクイエム歌詞全訳を収録したハンドブック。

井上太郎著『レクイエムの歴史；死と音楽との対話』
東京：平凡社、1999 請求記号 C63-420
レクイエムの歴史について日本語で書かれた初めての本。レクイエムだけでなく葬儀に関する音楽についても触れられている。

J.ハーパー著；佐々木勉、那須輝彦訳『中世キリスト教の典礼と音楽』
東京：教文館、2000 請求記号 C64-608
中世のキリスト教の典礼と音楽の詳しい解説書。付録に用語集、歌詞対訳、他。

井形ちづる、吉村恒訳；吉村恒編『宗教音楽対訳集成』
東京：国書刊行会、2007 請求記号 J112-814
ミサ曲、レクイエムや、バッハの「マタイ受難曲」、ヘンデルの「メサイヤ」等の主要宗教曲の歌詞対訳を収録。付録にレクイエムの歴史を掲載。

200CDアヴェ・マリア編集委員会編『アヴェ・マリア；200CD；宗教音楽の名曲・名盤』
東京：学習研究社、2004 請求記号 J103-881
グレゴリオ聖歌から現代までの宗教曲の名曲・名盤を紹介。レクイエムについても一章を当てて紹介している。

相良憲昭著『音楽史の中のミサ曲』
東京：音楽之友社、1993 請求記号 C57-927
ミサ曲の歴史、式次第、主要な作品を紹介している。

Robert Chase "Dies irae ; a guide to requiem music"
Lanham, Md : Scarecrow Press, 2003 請求記号 J100-552
レクイエムに関する詳細なガイドブック。基礎データとして、楽譜の版、演奏時間、楽器編成、ディスクグラフィ等を掲載。

楽譜

"Requiem, KV 626"
Bärenreiter, 1990. (Musica manuscripta ; 6). 請求記号 H31-731、他
1 巻目が、ジュスマイヤーの清書によるレクイエムの総譜のファクシミリ。
2 巻目はアイブラーなどの書き込みがされたモーツァルトの自筆譜のファクシミリ。

"Requiem"
Bärenreiter, c1965. 請求記号 E14-148
モーツァルト新全集によるミニチュア楽譜。ジュスマイヤー版。

"Requiem für Soli, Chor und Orchester, d-Moll, KV 626"

Breitkopf & Härtel, c1992. 請求記号 E14-769

ロビンズ・ランドン版によるミニチュア・スコア。

"Requiem for soprano, alto, tenor and bass soli, SATB and orchestra, K. 626"

Novello, c1993. 請求記号 F18-772

ドゥルース版によるピアノ・ヴォーカル・スコア。

"Requiem, K 626"

Oxford University Press, c1988. 請求記号 H27-866

モーニング版によるフル・スコア。

"Requiem für vier Solostimmen, Chor und Orchester, KV 626"

C.F. Peters : Revision eigentum von Edition Kunzelmann, c1980. 請求記号 H28-521

バイヤー版によるミニチュア・スコア。

"Requiem d-Moll, KV 626"

Hänssler-Verlag, c1994. 請求記号 H36-638

レヴィン版によるフル・スコア。

"Requiem"

Dover, 1987.. 請求記号 H38-422

ジュスマイヤー版によるフル・スコア。

録音資料

(ジュスマイヤー版)

オイゲン・ヨッフム指揮、ウィーン交響楽団、他 1955年録音 請求記号 XD14985

ヘルベルト・ケーゲル指揮、ライプツィヒ放送交響楽団、他 1955年録音 請求記号 XD60825

ブルーノ・ワルター指揮、ニューヨーク・フィルハーモニック交響楽団、他 1956年録音 請求記号 XD18867、他

ブルーノ・ワルター指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1956年6月23日録音 請求記号 XD18868、他

ブルーノ・ワルター指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1956年7月26日録音 請求記号 XD35556

ヘルマン・シェルヘン指揮、ウィーン国立歌劇場管弦楽団、他 1958年録音 請求記号 XD41993

カール・リヒター指揮、ミュンヘン・バッハ管弦楽団、他 1960年録音 請求記号 XD64990

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1961年録音 請求記号 XD27732

エーリヒ・ラインスドルフ指揮、ボストン交響楽団、他 1964年録音 請求記号 XD59224-5

イシュトヴァン・ケルテス指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1965年録音 請求記号 XD27288

若杉弘指揮、読売日本交響楽団、他 1965年録音 請求記号 XD43348

コリン・デイヴィス指揮、BBC交響楽団、他 1967年録音 請求記号 XD27286

ジョージ・セル指揮、クリーヴランド管弦楽団、他 1968年録音 請求記号 XD13365

カール・ベーム指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1971年録音 請求記号 XD27852

Jean-Pierre Lore 指揮、Bachorchester de Mayence、他 1972年録音 請求記号 XD6931

ミシェル・コルボ指揮、リスボン・グルベンキアン財団管弦楽団、他 1975年録音 請求記号 XD18411、他

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1975年録音 請求記号 XD27735

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮、フィルハーモニア管弦楽団、他 1978年録音 請求記号 XD27726

ヘルムート・リリング指揮、バッハ・コレギウム・シュトゥットガルト、他 1979年録音 請求記号 XD1648

ペーター・シュライアー指揮、ドレスデン・シュターツカペレ、他 1982年録音 請求記号 XD13261、他

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1986年録音 請求記号 XD2736

ジョン・エリオット・ガーディナー指揮、イギリス・バロック管弦楽団、他 1986年録音 請求記号 XD3777、他

リッカルド・ムーティ指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1987年録音 請求記号 XD28612

Karl-Friedrich Beringer 指揮、Munchner Bachsolisten、他 1988年録音 請求記号 XD8304

トン・コープマン指揮、アムステルダム・バロック管弦楽団、他 1989年録音 請求記号 XD10517、他

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮、フィルハーモニア管弦楽団、他 1989年録音 請求記号 XD27687
ネヴィル・マリナー指揮、アカデミー・オブ・セント・マーティン・イン・ザ・フィールズ、他 1990年録音 請求記号
XD27691
アンドルー・バロット指揮、ボストン・アーリー・ミュージック・フェスティバル管弦楽団、他 1990年録音 請求
記号 XD27782
コリン・デイヴィス指揮、バイエルン放送交響楽団、他 1991年録音 請求記号 XD16888、他
ジョルディ・サヴァール指揮、ラ・カペーリャ・レアル・デ・カタルーニャ、他 1991年録音 請求記号 XD17879
ウィリアム・クリスティ指揮、レザール・フロリサン、他 1994年録音 請求記号 XD33042
フィリップ・ヘレヴェッヘ指揮、シャンゼリゼ管弦楽団、他 1996年録音 請求記号 XD37591、他
フランス・ブリュッヘン指揮 18世紀オーケストラ、他 1998年録音 請求記号 XD50881
Christoph Spering 指揮、das neue orchester、他 2001年録音 請求記号 XD64988
Andreas Delfs 指揮、Saint Paul Chamber Orchestra、他 2003年録音 請求記号 XD57014
Dieter Kurz 指揮、Wurttembergische Philharmonie Reutlingen、他 2004年録音 請求記号 XD55642
ニコラス・クレーマー指揮、オーケストラ・アンサンブル金沢、他 2004年録音 請求記号 XD56471
クリスティアン・ティーレマン指揮、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、他 2006年録音 請求記号 XD58940
ヴラディスラフ・チェルヌシエンコ指揮、ユーゴスラヴィア国立リュブリアナ交響楽団、他 録音年不明 請求
記号 XD27933
ハンス・グシュルパワー指揮、ウィーン宮廷管弦楽団、他 録音年不明 請求記号 XD33766

(バイヤー版)

ゲルハルト・シュミット＝ガーデン指揮、コレギウム・アウレウム合奏団、他 1974年録音 請求記号
XD54404-5
ネヴィル・マリナー指揮、アカデミー・オブ・セント・マーティン・イン・ザ・フィールズ、他 1977年録音 請求記号
XD2805、他
ニコラウス・アーノンクール指揮、ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス、他 1981年録音 請求記号 XD5533
ジギスヴァルト・クイケン指揮、ラ・プティット・バンド、他 1986年録音 請求記号 XD7329、他
レナード・バーンスタイン指揮、バイエルン放送交響楽団、他 1988年録音 請求記号 XD11199
フランツ・ウェルザー＝メスト指揮、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1989年録音 請求記号 XD10979
クラウディオ・アバド指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1999年録音 請求記号 XD42638
(注1)
ニコラウス・アーノンクール指揮、ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス、他 2003年録音 請求記号
XD54232-3、他
ハンス＝マルティン・シュナイト指揮、シュナイト・パッサ管弦楽団、他 2004年録音 請求記号 XD54726

(ランドン版)

ロイ・グッドマン指揮、ハノーヴァー・バンド、他 1989年録音 請求記号 XD11952
ゲオルグ・ショルティ指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1991年録音 請求記号 XD27345
ブルーノ・ヴァイル指揮、ターフェルムジーク・バロック管弦楽団、他 1999年録音 請求記号 XD44325

(モーンダー版)

クリストファー・ホグウッド指揮、エンシェント室内管弦楽団、他 1983年録音 請求記号 XD27827
Rupert Gottfried Frieberger 指揮、Erstes Barockorchester Heiligenberg、他 1991年録音 請求
記号 XD21107

(レヴィン版)

ヘルムート・リリング指揮、シュトゥットガルト・パッサ・コレギウム合奏団、他 1991年録音 請求記号 XD18948

マーティン・パールマン指揮、ボストン・バロック、他 1994 年録音 請求記号 XD32897
チャールズ・マッケラス指揮、スコットランド室内管弦楽団、他 2002 年録音 請求記号 XD64989

(フロートハイス版)(注2)

ジョス・ファン・フェルトホーフェン指揮、オランダ・バツハ協会管弦楽団、他 2001 年録音 請求記号 XD48368、他

(リオ・デ・ジャネイロ版)(注3)

Jean-Claude Malgoire 指揮、La Grande Ecurie et la chambre du roy、他 2005 年録音 請求記号 XD58420

(注1) 版の表示はバイヤー版だが、実際はバイヤー版とレヴィン版の併用。

(注2) コンサートヘボウ管弦楽団の指揮者エドゥワルド・ファン・ベイヌムがモーツァルト没後 150 年の 1941 年にレクイエムの演奏するために、オランダの音楽学者マリウス・フロートハイス (Marius Flothuis 1914-2001) に依頼した。トロンボーン・パートの書き換えなどジュスマイヤー版への微細な修正を加えたもの。

(注3) オーストリア出身の作曲家ジギスムント・ノイコム (Sigismund Neukomm 1778-1858) が 1816 年にリオ・デ・ジャネイロを訪れた際に、同地のジョゼ・マウリシオ・ヌネス・ガルシア神父から依頼され、追加する「リベラ・メ Libera me」の作曲を行った。1819 年 12 月 19 日、同地の聖セシリア同胞会教会でガルシア神父の指揮でモーツァルトのレクイエムの南米初演が行われた。演奏に使われたこの版の楽譜が最近、リオ・デ・ジャネイロの大聖堂で発見された。この演奏はその蘇演演奏会のライブ。

映像資料

(ジュスマイヤー版)

コリン・デイヴィス指揮、バイエルン放送交響楽団、他 1984 年録画 請求記号 VB794 (ビデオ)、VD1194 (LD)、他

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1986 年録画 請求記号 VD2892、他

ユーディ・メニューイン指揮、ソヴィエト国立交響楽団、他 1989 年録画 請求記号 VD1101、他

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮、フィルハーモニア管弦楽団、他 1989 年録画 請求記号 VD2600、他

ジョン・エリオット・ガーディナー指揮、イギリス・バロック管弦楽団、他 1991 年録画 請求記号 VD1704 (LD)、VE1581 (DVD)

ハインツ・レーグナー指揮、ベルリン放送交響楽団、他 1991 年録画 請求記号 VD3151

(バイヤー版)

ニコラウス・アーノンケール指揮、ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス、他 1981 年録画 請求記号 VE1913

レナード・バーンスタイン指揮、バイエルン放送交響楽団、他 1988 年録画 請求記号 VD2384 (LD)、VE1436 (DVD)、他

ロリン・マゼール指揮、バイエルン放送交響楽団、他 1993 年録画 請求記号 VB2889

クラウディオ・アバド指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1999 年録画 請求記号 VE1124

(لندن版)

ゲオルグ・ショルティ指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、他 1991 年録画 請求記号 VD1325、他

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2010/9/8 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 二塚恵里・撰正弘